

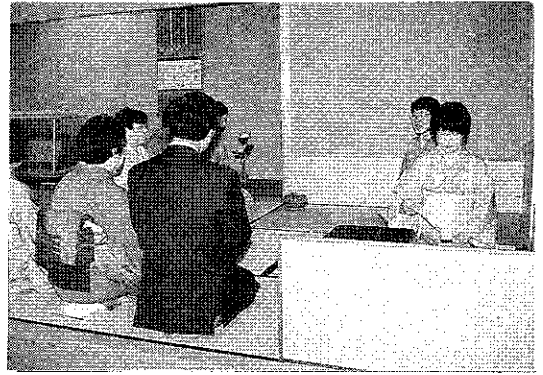
谷川士清の会結成3周年記念茶会・出張講座(啓発部会)

5月24日 県文化センターの「和庵」で

谷川士清は家業である医学は勿論のこと、国学・漢学における業績は周知の通りであるが、彼の残した文献により多方面での活動が分かっている。それは小笠原流の生花の許状を受けたり、歌道の伝書を受けたり、茶道をたしなんだりしたことである。

内科(主に産婦人科)医であった士清には、近くの納所の河原の狸が難産の女狸を助けてほしいと来診を乞い、それを助けたという話が京都まで伝わり、大徳寺の和尚が士清の茶室に「木狸庵」の扁額を送ったという。表千家の茶道を習い始めて40年近くになる私は、この話を聞いた時から津市所蔵

のこの額をかけてお茶会が開けたらどんなにいいだろうと願っていた。津市教育委員会から「木狸庵」の額の貸し出しを受け、大岡屋菓子店から士清自筆の掛け軸も快く貸していただき、池村純佳さん始め大勢の会員の協力で、5月24日、三重県総合文化センターの和室「和庵」で、「本会結成3周年記念茶会」を開催することができた。茶碗は会員の持ち寄りで初代半泥子、弟子の坪島土平、二代目半泥子、円二・博の親子の阿漕焼と津にゆかりの物ばかりを使用。時刻を違えての七席のそれぞれで三ツ村先生、増田代表、私(馬場)が交代で士清についての解説をし、お茶を差し上げた。晴天に恵まれ津市長近藤氏、津市教育委員長田中氏を始め140名のお客様に来ていただくことができた。今後も節目ごとにこのような催しをしていきたいと思っている。



近藤津市長を正客にお迎えして

小学校の出張講座は三年目

「谷川士清の会」が発足してからのメイン事業の一つであるこの出張講座は、「地元出身の偉大な国学者谷川士清について子供たちが理解し、郷土を愛し、自らの学習活動の励みになることを目的とする」という趣旨で始めて3年目に入り、ますます好評。

1年目は5校、2年目は11校、そして今年は育生・西が丘・藤水・南が丘・栗真・安東・豊が丘・高茶屋の8校から依頼があった。講師はベテランの竹内令さんを筆頭に増田孝会長・渡辺一夫さん・私(馬場)・そして新しく高倉俊孝さん・渡辺純子さんが加わり、事前に旧宅で数回勉強会を開いて、それぞれが子供たちへの熱意を極めて学校に出向いた。どの学校も先生方や子供たちは非常に熱心な授業への取り組みで、何年か先には谷川士清の名は津市民なら誰でも知っているようになること間違いなしに思われる。

(馬場幸子)

士清旧宅の紹介 シリーズ1

昭和初期の主要道路

八町通りについては第2号で紹介いたしました。が、観音さんの会式などで街へ出ていくのはどのように行ったのか?

八町通りは藤堂さんの時代から繁栄していましたが、私たちが子供のころは巴バスというバスがあり、美里方面へ走っていました。バスと云っても現在のマイクロバス程度だったでしょう。

このバスは八町通りから、いまの新町郵便局の前を通り参急新町駅へ、それから中新町を通過して、桜町・北堀端町を経て京口町まで走っていました。当時は新町駅も「参宮急行」で通称「参急新町駅」でした。

(増井治生)